「桃山学院大学学生論集」第23号の発刊にあたって

学長　松　浦　道　夫

入選者の皆さんおめでとうございます。

本年度の懸賞論文の応募は52編でした。例年に比べてやや少ないようですが，多少波があるのは仕方のないことでしょう。しかし優秀作が２編あり，昨年は該当者がなかったので今年はよかったと思います。

この論集に掲載される作品のそれぞれのテーマは，桃山学院大学の特徴を現すものです。従来の作品は政治，経済，経営，社会，国際，地域，人間などで，現代，近代を中心に多様性に富んでいました。今年は少し様子が違うようです。坂手委員長のご意見でもありますが，特異な応募作品も多いので審査基準を工夫すれば，入選者が増える可能性大とのことでした。それは次の楽しみにしましょう。

ともかく，論文作成のベースはやはりゼミにあることがよくわかります。学生自身の努力は当然のことですが，ゼミ担当の先生の熱心で，温かいご指導も皆さんの大きな支えになったと思います。卒業年次生は進路問題を抱えて論文作成に取り組みながら，ゼミの学習を続けられたことと，その努力に敬意を表します。残念ながら入選されなかった皆さんも，ともに大きな成果があったことでしょう。

本学では，学生のさまざまな活動を奨励しています。スポーツ活動，国際交流，ボランティア活動，地域貢献活動，大学コンソーシアム活動，課外活動など，どれも大切なものです。しかし大学本来の教育は，ゼミの学習や論文作成が基本だと思います。ですから，皆さんの努力と姿勢は全学によい影響を与えるでしょう。

今回の表彰式も，入選者の一人ひとりの笑顔がとてもさわやかでした。私の仕事のエネルギー源はこの皆さんの笑顔と生き生きした姿です。入選者の

皆さんに心より感謝します。

この論集に掲載される論文は，学生生活の集大成であり大切な記念であります。きっと皆さんはこのことによって，達成感や感動を味わったことでしょう。

さて，第23号の刊行も，審査委員の先生方のご苦労と担当職員の方々のご支援の賜物です。最後に学生とともにお礼申しあげます。